

# 令和6年度 SGU事後評価に係る基本的方針（案）（評価項目）

資料 3-2  
R5.12.14

大学が作成したロジックモデルを参考に、アウトカム（※）と関連付けて、事業の実績及び大学の国際化戦略について評価を行う。

## I. 項目別評価

### 1. 取組状況

以下の項目ごとに、**アウトカムと関連付けて**、事業の成果又は発展への課題等の評価を行う。

- ① 構想実現のための体制構築と実施状況
- ② 事業成果の横展開
- ③ 国際的評価の向上（タイプAのみ）
- ④ 大学の特性を踏まえた特徴（タイプBのみ）
- ⑤ 令和2年度中間評価留意事項への対応

### 2. 目標の達成状況

以下の項目ごとに、**各大学のロジックモデル（※）における中長期アウトカム及び今後の発展計画と関連付けて**評価を行う。大学が選択していない項目は、**評価の対象にはしない。**

- ① 成果指標と達成目標（共通項目、選択項目）
- ② 大学独自の成果指標と達成目標

### 3. 財政支援期間終了後を見据えた大学の国際化戦略

補助金による支援終了後を見据えた**自走化の進捗状況及び課題を踏まえた今後の展望**について、**中・長期アウトカムと関連付けて**、①徹底した「大学改革」と「国際化」の断行による大学の体制や組織文化そのものの国際通用性の強化及び大学の国際競争力の向上と、②**事業成果の横展開**、③財政支援期間終了後を見据えた体制整備含む財源確保、の3つの観点から評価を行う。

#### ※経費（補助金等）の使用状況

経費（補助金等）が適切かつ効果的に使用されたか、投入された補助金額に比して十分な取組が行われたかなどの観点から考慮する。

## II. 総括評価

「I. 項目別評価」における評価結果を踏まえ、各事業の**実績の全体**について評価を行う。

(※) 用語の意味

- ・アウトプット：アクティビティによる活動実績
- ・アウトカム：アウトプットがもたらす状況の変化、人の行動変容、その他成果
- ・ロジックモデル：各大学の構想（事業目的）の実現に至るまでの因果関係の仮説を体系的に図示したモデル図。

インパクト

### 日本の大学において、

- 世界を舞台に活躍できる人材、我が国の安全保障・外交政策に資する人材、日本経済を牽引・発展させる、イノベティブで付加価値を持った人材の輩出
- 各分野における世界第一線の研究に基づく技術革新
- 世界中から優秀な留学生が集い、人材のハブが形成され、我が国の国際化が進展

### 構想の実現

高度な頭脳循環・優れた人材育成の基盤整備

「日本の大学」から「世界の大学」へ

### 中・長期アウトカム

大学の**体質改善**による**組織文化の変化**

大学の**国際競争力強化**

高等教育の**国際通用性の向上**

国際化を先導するグローバル大学を日本に創設

- 外国人教員・留学生の受け入れ環境整備
- 日本人学生のグローバル対応力強化（語学力、国際感覚・教養）
- 国際交流・研究ネットワークの構築・拡大（共同学位の授与等）

「3. 大学の国際化戦略」で評価

補助金終了後の自走化

SGUの成果普及

SGU以外の大学

SGUの成果を踏まえ、各大学の特性・事情を踏まえ国際化

「1. 取組状況」で包括的に評価

### アクティビティ

- ① 教育・事務組織の再編
- ② 学内規程等の見直し
- ③ 教育プログラムの構築・実施
- ④ 海外大学のガバナンス・マネジメント等の事例調査
- ⑤ 研修（語学、F D、S D等）
- ⑥ 外国語による広報、情報提供
- ⑦ 多様な国籍の教員による授業の実施
- ⑧ シンポジウムの開催
- ⑨ 海外大学との連携協定

### アウトプット

#### 徹底した大学改革と国際化

- A 国際化関連
  - 多様性（①⑦⑨）
  - 流動性（①③⑦⑧⑨）
  - 留学支援体制（①③④⑤⑥⑨）
  - 語学力関係（③⑤⑥⑦）
  - 教学システムの国際通用性（②③⑦⑧⑨）
  - 柔軟な学事暦（②④⑥⑨）
- B ガバナンス改革関連
  - 年俸制の導入（②④）
  - 国際通用性を見据えた採用と研修（①④⑤⑥）
  - 事務職員の高制度化への取組（①④⑤）
- C 教育の改革的取組
  - ナンバリング（②④）
  - シラバスの英語化（⑥⑨）
  - 英語民間試験の学部入試への活用（②）

### 初期アウトカム

#### ガバナンス（B）

- ・国際化のための学内意識の醸成
- ・国際化推進にプライオリティをおいた意思決定

#### 組織（A、B）

- ・SGU採択校としてのブランド化の進展
- ・キャンパスの国際化
- ・人事、教務システムの整備
- ・事務職員の高制度化
- ・外部資金・寄附金等の獲得による自走化の進展

#### 教育・研究（A、C）

- ・教職員の多様化
- ・学生の流動性の向上（日本人学生の留学、外国人留学生の受け入れ、大学間学生交流）
- ・留学支援体制の構築・強化
- ・国際化に対応した学事暦の柔軟化
- ・質を伴った国際共同学位プログラムの展開（ジョイントディグリー等の開設）

## 「2. 目標の達成状況」で、達成状況と得られたアウトカムを評価

※上図は事業全体のロジックモデルであり、アクティビティやアウトプットは例示である。